

清瀬第四小



老木化したタケ。新しいタケの生長を阻害している。



南側のサクラ列植。間隔が狭く、競合しているのに加え、ヒマラヤスギなどと混成し、弱っているものも見られる



「清瀬市名木・巨木100選」のナンキンハゼ。付近にも、同種2本があるが、傾いたものには腐りが入り、上部で枝折れが発生。校舎付近のものは建物との接触で互いに悪影響を及ぼしている。

芝山小



校舎に近接するメタセコイア2本。1本はシンボルにする選択もある。



通用門横の樹木。越境・落ち葉は避けられない

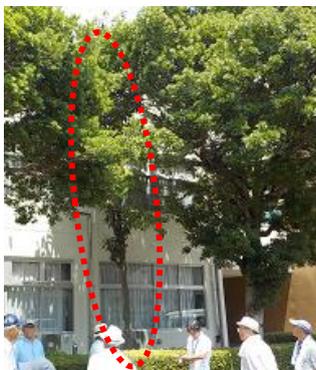


低木の間から生えたツルは、木を弱らせるため除去

コミュニティプラザひまわり



隣接するテニスコートや奥の住宅との間には、適度な緩衝帯が必要



建物などに近接する樹木は互いに悪影響を及ぼす



手入れがよく行き届いている生け垣

清戸自然公園



境界付近、特に住宅や電線に隣接する部分は、緩衝帯として、5mを目安に伐採を検討。



バスバイや電線への干渉を避けるため、樹形を無視した剪定をせざるを得ないため、伐採検討

児童センター・神山公園



北側のサクラ。間隔が狭く、枝が競合している。また、隣の集合住宅への越境や日影も懸念される。



駐車場近くのサクラ。腐りの侵入が見える。

清瀬第十小



サクラが道路反対の電線付近まで伸びているため、車に接触する危険



強剪定されたケヤキ。左写真は1本ずつ抜いて樹形の改善と管理費の抑制、右は手の施しようがなく伐採という意見



処置の形跡

ベッコウタケ



シュロが周りの木との競争で劣勢のため、周りの木のためにも伐採

東側のサクラの根元付近には、いずれもベッコウタケが見られた。今のところ、葉はつき、枯れもない様子

中清戸サンビレッシ児童遊園



クスノキ

強剪定されたケヤキと中央ですくすくと育つクスノキ